

リンドウ栽培の定着で中山間地域を活性化

大津・南部農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

大津市葛川地域は、国道367号線沿いに8集落が点在する人口230名、75歳以上の高齢者が5割を占める中山間地域です。令和元年度、県の「やまの健康」推進事業(以下、事業)の活用で、葛川まちづくり協議会が発足、その下部組織として6名の特産物育成部会(以下、部会)が結成されました。

『移住者を増加させ、人口を倍増させる』という事業目的の達成と、増え続ける耕作放棄地の解消を目指して部会が取り組んだのは、獣害に強い宿根草のリンドウ栽培であり、栽培面積の合計は12aです。

【普及活動の内容】

当地の土壌は保水力と保肥力が弱く、リンドウ栽培の適地とは言い難く、部会員のうち3名は70歳以上の高齢者、全員が花の栽培は未経験の方ばかりです。

当課は、土質の改善策として、マルチの下にかん水チューブを設置し、植穴に客土することを提案しました。また、栽培の省力化のため、液体肥料での施肥や病害虫の発生を初期に発見できるように支援を行いました。

販売面では、安定的な収益を確保するため、卸売市場への出荷と直売所を併用することを提案しました。卸売市場へはJAが集荷を行い、他県の大産地が取り組んでいない仏花専用として、切り花長45または60cmでの出荷を実現しました。

【普及活動の成果】

部会員からは、「リンドウはもっと簡単に栽培できると前任者から聞いていたのに。」と不満の声が当初は聞かれましたが、部会員個々を何度も巡回して対応した結果、適期作業が励行されるようになりました。

最終的には、卸売市場へ2,500本を出荷し、品質面で高い評価を受けることができました(写真1)。また、直売所においても2,000本販売することができました。

さらに、次作に向けて43歳の部会員は、新たな苗の購入に10万円を投資し、面積を拡大されることとなりました。



写真1 卸売市場へのお荷作業の様子

◎対象者の意見

来年は2万本の収穫を見込んでいますが、栽培面、販売面とも自信ができてきました。「あなたも一緒にやってみひんか」との声かけに、移住者の20歳代の女性が部会へ加入してくれました。(特産物育成部会長)